

# 海業の取組事例①【<sup>めが</sup>妻鹿漁港（兵庫県姫路市）】

## 概要

- 妻鹿漁港においては、家島諸島の水産物の消費拡大と島への誘客促進のため、坊勢漁業協同組合が、漁港用地を活用して「JFぼうぜ・姫路まえどれ市場」を整備（H27年3月開業）し、漁獲物の直販、地域水産物の提供（食堂）、家島諸島に関する観光情報の発信等を実施。
- また、家島諸島においては、日帰り型から宿泊型観光（渚泊）への転換を目指し、観光体験コンテンツの拡大、お土産品の開発、情報発信のためのWebサイトの構築等を実施し、来訪者の拡大を実現。



## 対策

### 漁港の有効活用による集客と情報発信（妻鹿漁港）

- 補助用地と単独用地を交換し、集客施設を整備（漁港用地を有効活用）



- 「まえどれ市場」では、「家島諸島」の水産物の飲食や販売とともに、観光情報を発信し、島への訪問者の増大を促進



### 宿泊型観光（渚泊）の推進（家島諸島）

- 家島諸島の地域資源を活用した体験プログラムを開発し、パッケージツアーとして展開



- H29年度から農山漁村振興交付金を活用して、体験コンテンツの更なる充実を図るなど、宿泊型観光（渚泊）を推進



## 効果

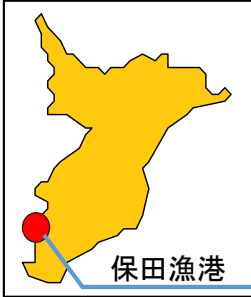
- まえどれ市場来場者数 : 43.6万人（H30年度）
- まえどれ市場売り上げ : 2.4億円（H30年度）

- 家島諸島内宿泊者数 : 1,763人（H29年度） → 4,690人（H30年度）

# 海業の取組事例②【保田漁港（千葉県鋸南町）】

## 概要

- 保田漁港では、魚価低迷等により漁協の経営が厳しくなる中、水産物の付加価値向上や直販等による収益向上が課題。
- このため、漁協では、補助用地を町単独用地と交換することなどにより漁港用地を有効活用し、地元の魚を活用した魚食普及食堂「ばんや」をオープンするとともに、温泉宿泊施設や観光定置網等の事業を積極的に展開。
- これにより、地元水産物の利用拡大とともに雇用の増加が図られるなど、地域水産業の活性化に大きく寄与。
- 最近では、近くに整備された道の駅「保田小学校」との連携により、更なる集客数増加に向けた取組を展開中。



## 対策

### 外観



### ばんや内観

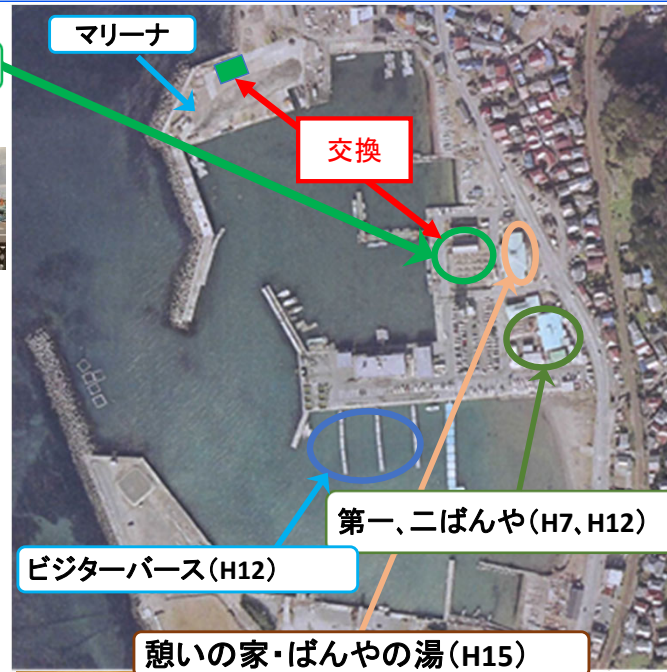


### 【第一、二ばんや】

- ・漁港区域内にある町有地の占用を許可

### 【第三ばんや】

- ・町単独用地と補助用地を交換
- ・漁港施設用地利用計画を変更
- ・農山漁村活性化プロジェクト交付金を活用



### 地産食材



### 定置網見学



### 温泉宿泊施設



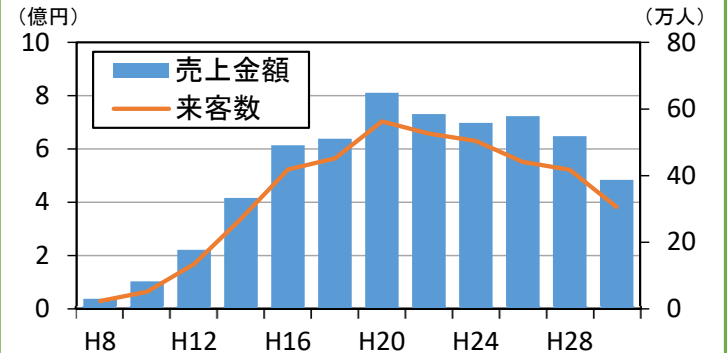
### ○道の駅「保田小学校」との連携（H28.12オープン）



保田漁港近くに、廃校となった小学校を活用し「道の駅」がオープン。「ばんや」との相乗効果で更なる集客を目指す。

## 効果

### ○年間約40万人が来訪し、約6億円の売上

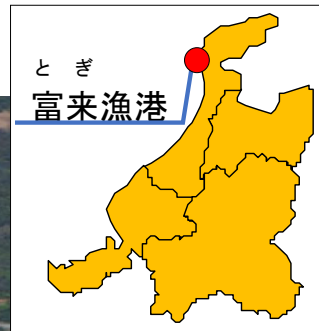
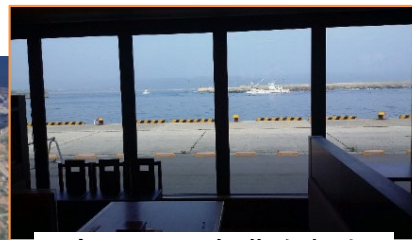


# 海業の取組事例③【<sup>とぎ</sup>富来漁港（石川県）】

## 概要

- 漁港内の静穏水域を活用して、定置網で漁獲したサバ等の蓄養や、トラウトサーモンの養殖を実施。
- 漁港施設用地（補助用地）と単独用地の交換により、飲食店（回転寿司）と直売所を開店し、蓄養・養殖した新鮮な魚介類を来訪者に提供。
- 漁港来訪者の大幅な増加とともに、新たな雇用創出と漁業者の所得向上を実現。

## 対策



補助用地と  
県単独用地の交換

漁港水域  
の利用

蓄養・養殖水面

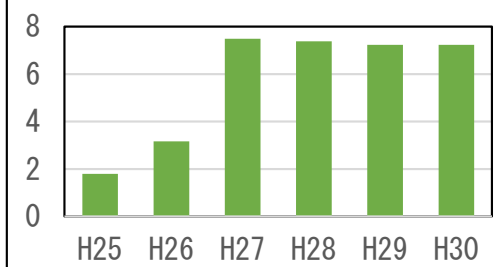
国道



## 効果

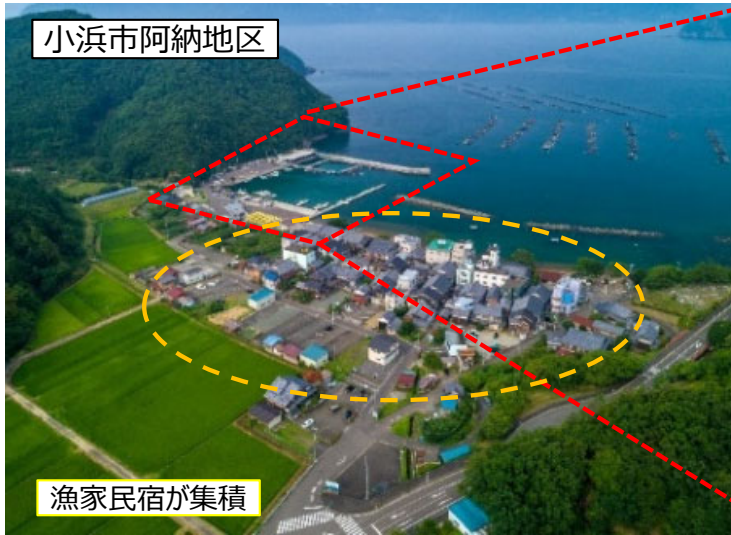
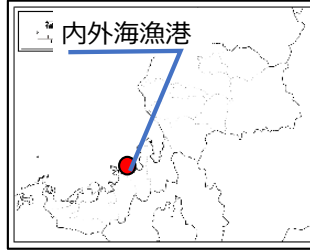
- 富来漁港の来訪者約 7 万人
- 地元雇用者数 10 人 (H30)
- 寿司店、直売所売上げ  
それぞれ約 1 億円 (H30)

富来漁港の来訪者数



# 海業の取組事例④【<sup>うちとみ</sup>内外海漁港（福井県小浜市）】

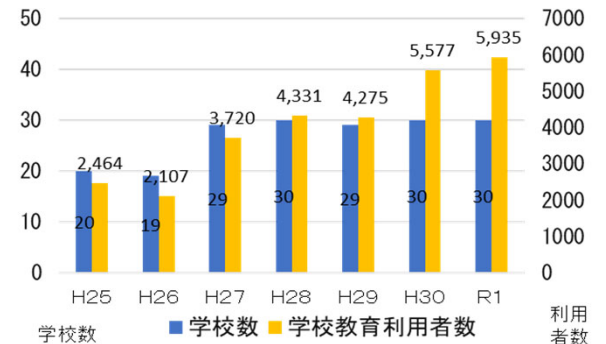
- 内外海漁港の港内を活用して、平成19年より「ブルーパーク阿納」を開所し、交流・体験型の食に関する教育の受入を開始。
- 港内泊地を釣り体験の場に活用するとともに、用地を釣った魚を捌いたり食ったりするスペースに活用。
- 漁港背後には、地元水産物を提供する「漁家民宿」が多数。地域一帯となって漁業体験、水産物消費、宿泊とパッケージとなった体験型ツアーを展開し、施設への利用数は年々増加しており、地域活性化に寄与。



事業実施時期	平成19年オープン	
事業実施主体	小浜市阿納体験民宿組合	
設置した施設と有効活用手段	①魚捌き体験施設	⇒漁港環境整備施設用地（補助用地）の占用許可
	②屋根(BBQスペース)	
	③釣り堀、釣り桟橋	⇒水域の占用許可（10年間）

## 効果

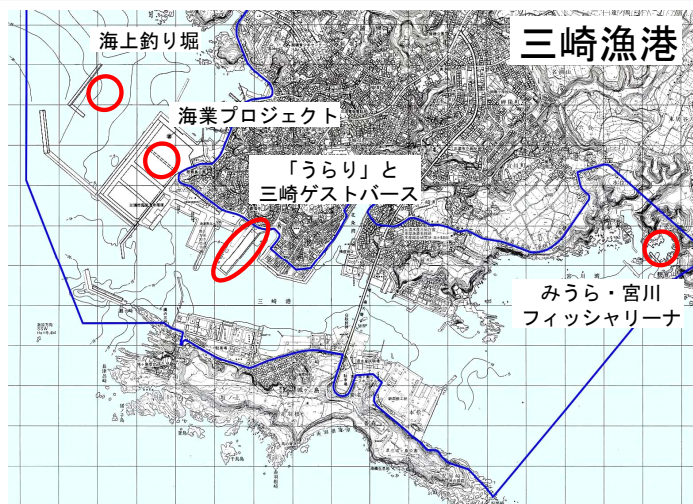
- 学校教育利用者数は年々増加し、利用者数は5,935人、30校（R1）
- 地元の民宿の女将や漁師が体験のインストラクターを担当し、地域の雇用確保にも貢献。



# 海業の取組事例⑤【<sup>みさき</sup>三崎漁港（神奈川県）】

## みうら・宮川フィッシャリーナほか（神奈川県三浦市 三崎漁港）

- 古くからの漁業根拠地である三崎漁港に、プレジャーボート用のゲストバース、フィッシャリーナを整備。
- 三崎ゲストバースはスバル興業(株)及び(株)三浦海業公社、みうら・宮川フィッシャリーナ（オーナーバース・ゲストバース）は、みうら漁業協同組合が、指定管理者として運営・管理。
- 三崎フィッシャリーナ・ウォーフ「うらり」で新鮮な魚介類の販売、隣接する魚市場でのマグロのセリ見学、海上釣り堀、観光船等の取組みにより、地域観光の核となっている。
- 「海業プロジェクト」は、国家戦略特区を活用して公民連携によりスモールホテル・ヴィラ・コンドミニウムを整備し、国際的な経済活動の拠点形成を目指しており、第1フェーズ（2020～2025年）では、2カ所の浮棧橋を整備し、富裕層をターゲットとしたブランディングイベントなどを実施している。



- 「うらり」来訪者数 約110万人 (R2)
- ゲストバース利用隻数：1,198隻 (R2)
- 海上釣り堀利用者数 約3万人 (R1)

# 海業の取組事例⑥【<sup>はしり</sup>走漁港（広島県福山市）】

## 概要

はしり

- 走漁港では、ノリ類養殖、小型底引き網、小型定置網を中心に営まれているが、近年その水揚げ量が不安定（ノリ類：1,263t(H8)→750t(H27)→690t(H29)、イワシ類：268t(H8)→59t(H27)→260t(H29)）。
- 地元水産業の活性化を図るため、未利用となっていた漁具保管修理施設用地及び加工場用地を活用し、民間事業者（三島食品（株））がスジアオノリの陸上養殖施設を設置。
- 令和2年6月から養殖を開始し、今後、アオノリの安定供給、地元雇用の増加や県有施設使用料の増加等の効果が期待される。



## 取組



- 財産処分：漁港施設用地（漁具保管施設修理施設用地2,910㎡、加工場用地5,946㎡）合計8,856㎡
- 使用目的：漁村地域の振興に資する陸上養殖施設（養殖用水槽、一次加工（乾燥）施設等）の設置
- 占用期間：占用開始日から令和7年3月まで（ただし、申請により更新可能）
- 工事完成年度：令和2年度

## 期待される効果

- アオノリの生産量増加  
計画生産量：10 t  
（将来的には15 t まで増加）
- アオノリの安定供給  
陸上養殖による海水温変化への影響や異物混入のリスクの低減
- 新規雇用の創出  
地元（島内）で従業員18人をパートで採用（島内人口439人(R2.12)）
- 使用料の増加  
施設使用料：年間約340万円



乾燥する前の養殖スジアオノリ